

平成25年度出雲農林高等学校の学校評価について

島根県立出雲農林高等学校
教頭 坂根 一 則

I 学校評価の必要性と目的

今日、学校の裁量が拡大し自主性・自立性が高まる中で、その教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことが大切になっている。このことにより、児童生徒がより良い教育活動等を受けることができるように、学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保障を図ることが重要となる。また、学校運営等に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が適切に説明を行い、共通理解をもち、相互の連携と協力の促進を図らなければならない。これらのことから、学校評価により本校教育の現状・成果・課題等を明確にし、それらを次年度の目標や実践に反映させ、教育効果を増進させることにより、本校教育活動の充実に資することを目的とする。

II 本校の目的と学校目標

本校は、「教育基本法」の精神に則り、高度な普通教育及び農業に関する専門教育を施し、農業各分野の将来のスペシャリストとなり、国家、社会に貢献できる人物を育成することを目的としている。そして、目的を達成するために、教育課程を定め、人的、材的、物的分野の経営管理を適切に行ないながら、本校の教育目標である

- 一、自他の敬愛
- 二、心身の陶冶
- 三、知性の涵養
- 四、技能の鍛錬
- 五、勤労の尊重
- 六、学園の平和

の達成をめざしている。この本校の目的と目標が達成されているかどうかについて、次の方法により学校評価を行った。

III 学校評価の方法について

平成25年度教育基本方針に基づいて設定した重点目標、学科目標、学年目標、校務分掌などの目標や手立て及びその達成を目指した実践について、全教職員による自己評価による評価を行った。また、全校生徒及び全保護者へのアンケートにより、『達成度』や『満足度』を「A～Dの数値」で表した。更に、学校評価の結果をホームページ、PTA総会・役員会での説明や、学校評議員会等の場面をとらえて説明を行うことで、開かれた学校づくりを行っている。以上の点を基本として、平成25年度の本校における学校評価の結果を報告する。

1 重点目標・学科・学年・校務分掌等の評価

- (1) 重点目標に基づいた評価
- (2) 各学科の目標に対する評価
- (3) 各学年の目標に対する評価
- (4) 学校評価保護者の評価
- (5) 学校評価学校評議員の評価
- (6) 各分掌目標に対する評価

2 出雲農林高等学校の現状を示す具体的な数値などによる評価

平成21年度から平成25年度の5年間の現状を下記の項目について具体的に数値で表し、評価を行った。

(1) 意欲ある志願者の確保について

中学校の生徒の本校志願状況等を下記の項目について過去5年間の数値を示した。

・中学校説明会及び本校訪問者回数 ・体験入学参加者数 ・中高連絡会参加校数 ・推薦者数志願状況

(2) 入学者の学校適応について

本校に入学した生徒の活動状況等を下記の項目について過去5年間の数値を示した。

・入学前指導参加者数 ・一年生の保健室利用 ・S C相談回数

(3) 在学者の状況

在学生の学校生活状況等を下記の項目について過去5年間の数値を示した。

・出席率、欠席、遅刻、早退者数・長欠者(30日以上)、試験成績(欠点保有者数)
・問題行動数・中途退学者、休学者、在籍者、進路変更者数・保健室利用者数・学校満足度

(4) 学校訪問者数

本校の訪問者状況等を下記の項目についてまとめて数値を示した。

・PTA総会等出席者数 ・学校視察等訪問者数 ・ふれあい動物広場訪問者数

(5) 生徒活動

本校の生徒の活動状況等を下記の項目についてまとめて数値で示した。

・部活動及び農業クラブ活動成果(中国大会以上表彰者数)・部活動所属者数・図書貸し出し数

(6) 地域貢献活動

・ふれあい動物園訪問者数 ・移動動物園回数 ・太鼓部演奏回数

3 生徒による自己評価と学校評価

全校生徒を対象に大きく「自己評価」及び「学校評価」についての項目を定め実施した。

(1) 自己評価は生徒自身の取組みに対する評価とする。

・学習活動

・学校生活

(2) 学校評価は、学校全体の取組みに対する評価とする。

・普通教科の授業で充実して取組めた科目 ・専門科目の授業で充実して取組めた科目
・学校生活 ・施設 ・安全管理

4 外部評価について

(1) 学校評議員による評価

年4回実施した学校評議員会において、行事視察及び生徒による活動報告及び学校で取組んでいる様々な事業等の報告を実施した。最終の学校評議員会においては、自己評価の結果及びPTA役員・学級評議員による学校評価の結果等を示すとともに、本年度の特色ある取組についての説明を実施し、直接様々な意見や提案等をいただき、最終的には文書で評価していただいた。

- ① 学校経営の取組
- ② 学科の取組
- ③ 生徒の活動
- ④ 施設設備
- ⑤ 学校への要望(文書記述)

IV 評価結果について

1 平成25年度重点目標に基づいた評価と結果について

教育方針に基づいた重点目標について、下記の4つの項目で昨年と同様に実施し、その結果をまとめた。評価は、全教職員による自己評価を行った。また、『達成度』としては、上記の教育方針の評価と同様に「A～Dの数値」で表してその結果をまとめた。

(1) 評価の方法

それぞれの目標についての『達成度』として「A～Dの数値」で表した。

また、A：良い・達成できた、B：概ね良い・ほぼ達成できた割合をパーセントで表した。

A：良い・達成できた・そう思う	B：概ね良い・ほぼ達成できた。大体そう思う
C：あまり良くない・あまり達成できなかった。	D：良くない・達成できなかった。そう思わない。

(2) 評価結果

【重点目標のまとめ】

重点目標		評価結果				
1	社会に通じる人間力をもった生徒を育成する。	A	B	C	D	満足度
1	社会的に通用するあいさつができる生徒をつくる。	1	32	16	0	67.3%
2	部活動や生徒組織活動で活発に活動する生徒をつくる。	7	34	7	0	85.4%
3	他者を思いやり、正しく自己主張ができる生徒をつくる。	1	37	10	1	77.6%
4	遅刻欠席がなく時間を遵守できる生徒をつくる。	6	38	4	0	91.7%
5	整理整頓、清掃が自らできる生徒をつくる。	13	27	7	2	81.6%
6	基礎学力が定着した生徒をつくる。	3	29	14	2	66.7%
7	各学科における基礎的知識、技術を持った生徒をつくる。	7	26	7	0	82.5%
2	自ら学ぶ姿勢を持ち、志を持って社会貢献する生徒を育成する。	A	B	C	D	満足度
1	具体的な目標や達成感のある学習指導を推進する。	9	36	2	0	95.7%
2	先進的・先導的なプロジェクト研究を推進する。	6	20	10	0	72.2%
3	キャリアプランニングを可能にする指導を推進する。	9	29	8	0	82.6%
4	地域を活用し、地域に貢献する連携事業を推進する。	14	19	6	0	84.6%
5	地域に開かれた学校づくりを推進する。	18	16	5	1	85.9%

社会に通じる人間力をもった生徒を育成するについては、「遅刻欠席がなく時間を遵守できる生徒をつくる」が91.7%で最も高い評価を得た。平成17年度からの調査結果で、遅刻289回・早退48回は最も少なく、第1位であった。欠席は600回で、平成23年・24年に次ぐ人数であったが、長期欠席者3人がいたための結果であり、それ以外の欠席数は減少した。課題として、「社会的に通用するあいさつ」「基礎学力の定着」が上げられた。あいさつについては、生徒調査では92.7%の満足度であったが、教職員は67.3%で教職員との意識の差が25.4ポイントあり、心のこもった大きな声であいさつの励行が課題となった。基礎学力の定着については、学び直しトレーニング（マナトレ）による、国語・数学・英語で熱心な指導体制が構築されてきた。継続して改善しながら取組みたい。その他の理科、社会、家庭科等の普通教科の指導力アップが大きな課題といえる。自ら学ぶ姿勢を持ち、志を持って社会貢献する生徒を育成するについては、「具体的な目標や達成感のある学習指導を推進する。」が95.7%で、総合実習・課題研究での取組や国語・英語・数学の基礎学力指導が大きく影響して好結果を得た。課題として、先進的・先導的なプロジェクト研究を推進するが72.2%で低い数値となった。プロジェクト学習は、指導者の責任に負うところが大きい。教員の新しい研究への意欲や情報収集、更には研修が最も重要で推進していきたい。

2 平成25年度 生徒による自己評価及び学校評価について

本校生徒全員に、アンケート方式で自己評価と学校全体の取組みの評価を実施した。自己評価は、学習活動や学校生活に関すること、学校評価は、学科の学習とその取組み、学校生活・施設、安全教育について評価を行った。その結果を『学校の満足度』として「パーセント数値」で表した。

(1) 評価の方法

それぞれの目標についての『達成度』として「A～Dの数値」で表した。

A：良い・達成できた、B：概ね良い・ほぼ達成できた割合をパーセントで表した。

A：良い・達成できた・そう思う	B：概ね良い・ほぼ達成できた。大体そう思う
C：あまり良くない・あまり達成できなかった。	D：良くない・達成できなかった。そう思わない。

(2) 評価結果

- ① 平成25年度 1 学年生徒による自己評価及び学校評価表・・・別表
- ② 平成25年度 2 学年生徒による自己評価及び学校評価表・・・別表
- ④ 平成25年度 3 学年生徒による自己評価及び学校評価表・・・別表

(3) まとめ

生徒は、学校生活に満足できていて、過去最高の満足度 91.0%であった。昨年は 85.5%で驚きの数値であったが、本年は更に上昇し 90%を超えた。農業を通して人間形成を図る。動植物を育てることにより心身ともに成長する等の「農業の教育力」の成果である。学校への満足度が高かった項目は、「まじめに学習に取り組んでいる」が 87.4 %で、落ち着いて授業に取り組んでいることが分かる。本年は、意欲を持って学習に取り組む姿勢が、普通教科の数学・国語・英語で人数が増加した。マナトレ（学び直しトレーニング）の成果といえる。「服装・頭髪などの校則が守られているか」は、95.0%で昨年より 12.1 ポイントアップした。定期的な服装指導により違反者は減少し、校則を守ろうという意識が高まってきた。また、1 学年から行っているキャリア教育により、進路を見据えた意識が作用していると考えられる。「挨拶をきちんとできる」が 92.7 %で昨年より 8 ポイント上昇したが、教職員の意見では、「あいさつがきちんとできない」とする者が多く、生徒と教員の意識の差が大きく次年度の課題となった。「大きな声で心をこめて、いつでもどこでも」を励行するように指導をしたい。評価の低い項目では、「授業・実習での発言や発表、議論ができていない」が 49.2 %、「平素から家庭学習に取り組んでいる」が 27.0 %などで数年来継続して課題となっている。しかし、本年は各種取り組みの導入により上昇傾向を示した。1 年の漢字検定、2 年の農業技術検定、1・2 年のマナトレの導入により着実に改善されてきた。国語・英語・数学の基礎力をつけることは、進路保障につながるものであり、評価改善しながら推進していきたい。

生徒会・農業クラブ・家庭クラブの活動については、昨年より 7.3 ポイント上昇し「活発に活動した」と評価している。農業クラブ全国大会では、8 人の入賞者を出し過去最高の成果を上げ、全国から注目されることになった。生徒会は、創立 80 周年記念体育祭や球技大会で成功裏に終了し、保護者や学校評議員から高い評価を得た。家庭クラブでは、目立った成果がなかったが、地道に啓発活動を行った。などからアップしたものと思われる。また、「1 年時の宿泊研修・2 年時の研修旅行を高校生活に生かすことができた」が 95.9%で、意義ある取り組みであり継続して強化指導をしたい。

部活動の所属者数を下表に示した。過去最高の入部率 88.6%であった。「積極的に取り組んでいるかどうか」については 79.4%の満足度で、昨年よりマイナス 8.9 ポイントとなった。大会結果からカヌー・ウエイト以外の部活動で、県上位や中国大会・全国大会での入賞がないことによるものと思われる。

【学校満足度（生徒自己評価より）】

年 度	H22	H23	H24	H25
満足度	79.0%	80.3%	85.5 %	91.0 %

【部活動所属者数】

年 度	H22	H23	H24	H25
部員数	323 名 (78.8%)	325 名 (76.8%)	376 名 (87.5%)	364 名 (88.6%)
1 年	70.1%	79.4%	86.8%	89.5%
2 年	83.9%	78.4%	85.2%	89.6%
3 年	82.4%	72.7%	85.0%	86.6%

3 平成25年度 保護者による自己評価及び学校評価について

保護者による学校評価は、全保護者を対象に実施した。その内容は「学習活動、生活指導、行事、施設設備の充実、PTA 活動、安全管理、学校生活」である。実験実習を中心とした体験活動、各学科の特色を生かした取組み（バイオ苗の地域への提供、緑化事業、農産加工品の販売、移動動物園・ふれあい動物園など）は 98%の満足度で、植物や動物の命を育てることを通して社会で生きる力を育成しているのは 97%、農場当番は授業・実習を補完するものとして有意義と考え、実施していますがこれは評価できるものでしょうかは 97 %で大変高い評価であった。これらは、他校にない誇れる取組であり特徴ともいえ、このカラーを継続したい。また、服装頭髪指導を中心とした生活指導についても 92 %、遅刻を減らす取組みは 91%の高評価であった。昨年度に課題とされた家庭での学習課題や課題テストへの取組みについては、昨年の 83%より 7ポイントアップし 90%になった。また、予習や課題などの家庭学習指導については、78 %で、プラス 19 ポイントの評価をいただき、大幅に改善してきた。しかし、1 年の漢字検定、2 年農業技術検定、国語・数学・英語以外は勉強不足の課題が出てきた。理科・社会・家庭等の普通科目においても家庭学習が加わるように教務部が中心となり、学力向上に向けた取組みを強化したい。

4 平成25年度 PTA 評議員会における学校評価について

平成26年2月12日（水）PTA 評議員会を開催し、学校から PTA 評議員の皆様は学校の現状・取組み・生徒及び保護者による自己評価や学校評価の結果等について報告を行った。

(1) 総務部

- ① PTA 活動の奉仕活動は雨天のため中止となった。年 2 回の PTA 会報は見やすいものとなった。
- ② ホームページは、部活動の様子や結果報告を多くした。
- ③ 一日体験入学は、2 回とも昨年以上の希望者であったが、学科の偏りがあった。
- ④ 中学校との連携強化のため、月報特別号を市内の中学 3 年に配布した。
- ⑤ 80 周年記念事業は、卒業生会や各分掌との連携・協力により記念式典を実施できた。
- ⑥ 人権・同和教育は、計画通りホームルームで実施した。

(2) 教務部

- ① 遅刻回数は減少したが、特定の生徒・クラスで目立つようになった。
- ② マナトレ 2 年目で基礎力の定着効果はあったが、運用面での検討事項が上げられた。
- ③ 資格取得に意欲が出てきた。各学科で組織的な指導体制を確立したい。
- ④ 校務支援システムへの移行を速やかにできるように努めた。

(3) 進路指導部

- ① 体系的な進路指導体制が完成してきた。
 - ア、生徒
進路ガイダンス、進路検討会、基礎力テスト、作文テスト、面接指導、小論文指導
進路ミュージカル、進路講演会、島大キャンパスツアー、県内企業視察
 - イ、保護者
保護者向け進路講座 6 月進学・就職
 - ウ、教員
進路検討会、進路研修会
- ② 就職・進学とも 100%決定した。学年会・各分掌・農場部との連携による。
- ③ 4 年制大学への進学者が例年より多くなった。（国公立 3 名、私立 8 名）
- ④ 校内選考基準を見直し適切なものになった。

(4) 生徒指導

- ① あいさつ運動の充実を図ったが、大きな声や立ち止まってするなどのレベルの高さが課題となった。
- ② 服装・頭髪指導の追指導生徒が 1 年生に偏った。
- ③ 遅刻回数が昨年より減少した。
- ④ 部活動への意欲的参加を推進し、1 年は 89.5%の入部率となった。
- ⑤ 自転車マナーアップの向上について、交通自治委員会を中心に積極的な街頭活動を展開したが、一部の生徒に運転マナー違反があった。

5 平成25年度学校評議員による学校評価について

平成26年2月17日(月)に学校評議員会を開催し、25年度の学校評価について、出雲農林を示す数値による評価・生徒による学校評価・保護者による学校評価・保護者の学校への要望・教職員による重点目標の評価報告を行った。その説明を元に、学校評議員5名に感想や改善の意見をいただいた。

【学校評議員の意見】

- ①学校生活に対する生徒の満足度の高さは、素晴らしいと思います。
- ②マナトレの導入が、生徒の学習意欲を高めるのに効果的だったことが分かりました。より一層の向上を期待します。
- ③部活動について、入部率が向上したことは、素晴らしいと思いました。一層の向上と充実を期待します。
- ④体験的な学習とその発表の場をさらに充実させていただきたいと思います。
- ⑤農業が育てる人への不思議な力を見た気がします。
- ⑥学校に対する満足度が高いのは、諸先生方の取り組みや対応について、計り知れない日々の積み重ねがあったからだと思います。
- ⑦先生と生徒、また、高校サイドと中学校サイドとの考えや思いの温度差があるのは致し方ないことだと思います。
- ⑧入学者の定員割れが、大変残念に思います。
- ⑨2年間学校評議員をさせていただきましたが、大変素晴らしい学校だと思いました。

これらの意見を総括すると、学校生活に満足している生徒が91%いることは素晴らしいことだ。農業を通して人間形成が図られ、学年が上がるに連れてそれが顕著であり継続して取組んでほしい。マナトレの導入により、普通教科の学習意欲の向上があった。改善しながら進めてほしい。課題として、生徒の定員割れが大変残念である。中学校との連絡強化を推進願いたい。などの意見をいただいた。

V まとめ

本校の生徒は、学校生活において生き生きと明るく元気に活動しており、91%の生徒が学校生活に満足している。この数字は、過去最高で評価できる数字である。1年生が88%、2年生が90%、3年生が95%で、学年が上がるに連れ満足度はアップした。このことは、まさに農業の教育力といえる。動植物を育てることにより、心身ともに成長した結果である。「農業と環境」や「総合実習」を通して、作物・草花・野菜を播種から収穫まで体験する。動物科学科では、「農業と環境」で有精卵から鳥の誕生・飼育・採卵までの一貫した学習をする。早朝から乳牛の搾乳・愛玩動物の飼育、放課後の農場当番実習により、情操が確実に育つたものと判断する。また、2年時から数名のグループで「課題研究」に取組み、課題を設定・遂行・評価・発表し考察する問題解決学習は、協調性・責任感・リーダーシップの養成等で社会性が培われる。学習面では、落ち着いた態度と姿勢で望み、欠点保持者が激減するなど学習成績は向上してきた。本年度は、特に国語・英語・数学に顕著であった。この3科目は、充実して取組めた科目として、生徒が上位に挙げた。学び直しトレーニング(マナトレ)導入の成果であると同時に、その活用を有効に授業に導入した教科担当者の成果である。また、本年は、掃除前後に整列し清掃の点呼をとり一緒に清掃に取り組む方法により、教室や廊下、農場、運動場はきれいに清掃された。しかし、教職員の意識に差があり、清掃が徹底された場所や不徹底の箇所に差が出て、次年度の課題となった。保護者による学校評価で、「お子さんは、予習や課題などの家庭学習を十分行っていますか」についての回答で78%の満足度であった。昨年より19ポイント向上した。これは、1年生の漢字検定51%合格。2年生の農業技術検定3級77%合格。1・2年生のマナトレ基礎編認定者153名中、国語152名・数学152名・英語146名の認定結果にみられるとおり着実な成果であった。次年度は、更に評価・改善して満足度を高めたい。

本校は、農業の専門高校として特色を生かした取組により、生徒が知識や技術を身につけ自己の目標をもって意欲的、主体的に取組み、進路実現を可能にできる学校を目指している。そのためには、学校の取組みを教職員、生徒、保護者の立場から適切な評価を行い、さらには、外部の評価者として、学校評議員会・PTA 評議員会等の評価を通して積極的な意見をいただき、常に検証と改善を行いながら、開かれた活力のある学校を目指していきたい。